

首都圏から力強い助っ人

積丹かぼちやの収穫に汗！

～安心・安全な農産物を通しての交流～



積丹町産の南瓜や馬鈴薯などの

契約販売に取り組んでいる町内の農家と生活クラブ事業連合生活協同組合連合会(※)(生活クラブ)組合員との交流活動が、8月29日から2泊3日の日程で行われました。

生活クラブは、残留農薬を国の基準の10分の1以下とする独

自の安全基準を設けるなど、よりおいしく安心・安全な食品を

生活者に届けることを目的として運営されています。

この交流活動は、生活クラブの組合員が安心・安全な農作物を食べ続けていくためには、提携産地における農業の維持が必要であることから、農業の手

伝いを行うことにより人手不足を解消してもらおう(援農)とする生活クラブの思いと、組合員に積丹町産の農作物の現状を知ってもらいより多くの購入を促したい農家の皆さんの思いにより昨年から行われているもので、趣旨を理解する首都圏の組合員が、交通費を自己負担し参加したものです。

今回の援農に参加した男性3人、女性2人は、東京や神奈川県に住む会社員や大学生などで、29日、午後に積丹町に入り、4軒の農家に民泊しながら、30日夕方まで、とうもろこしや南瓜の収穫、箱詰め作業などを手伝い、31日は、町内観光を行い帰路に着きました。

「たら積丹町と言うほど、積丹町の南瓜は生活クラブでは有名な2年目の実施でリピーターが2人は、積丹町に魅力がある証し。」と話してくださいました。

三浦さんを受け入れた農家、酒巻徹さん(丸山町)は、「猫の手も借りたい忙しい時期にお手伝いいただき、また、南瓜の出荷を体験、作業の大変さを理解していただいたようで、感謝しています。参加された方々の意見交換は、来年以降の受入に向けての参考となりました。」と、交流の成果を話されていました。

生活クラブによる積丹町産農作物の取扱いは、昭和57年から始まり、地元産の堆肥による土づくりと冷涼な気候を活かした低農薬栽培を続け、現在では生活クラブが1年間に取扱う南瓜の3分の1から4分の1が積丹産で占められており、重要な産地の一つと認識されるまでになっています。

おいしく安心・安全な農産物を通しての交流活動が、今後、発展することにより、より多く



▲三浦美都紀さん(左)と酒巻徹さん

「昨年(みづき)に続き参加した三浦美都紀さんは、「大学の園芸学部で農業の勉強をしています。が、昨年、お手伝いをして農作業の大変さを実感しました。南瓜が重く作業は疲れたところもありますが、北海道の広い畑に感激し、農家の方との交流が楽しかったので、今年も参加しました。」また、参加者に同行した援農の事務局の長谷川陽子さんは「南瓜といっ



▲生活クラブへの出荷作業(美濃寛さんの作業場：丸山町)

の方に農業の大切さを理解していただき、一人でも多くの方に「積丹町の南瓜や馬鈴薯のファン」になっていただけることに期待したいと思います。

松葉和弘さん宅(婦美町)に民泊した事務局の長谷川陽子さんが、今回の同行記を事務局ホームページ(夢都里路くらぶ <http://yutoliro.jp/tabid/459/Default.aspx>)で紹介しています。

※21の都道府県で活動する32の生活クラブ生協と生活クラブ共済連の事業連合組織で、組合員数は約35万人。

いつまでもお元気で・・・今年も622人が長寿の祝い

長寿と健康を祝う「積丹町敬老会」（菊谷富弥実行委員長）が9月20日に総合文化センターを会場に開催されました。

今年の敬老対象者は、昭和12年9月30日以前に生まれた75歳以上の方々。新たに40人を加えた622人（男性245人、女性377人）で、この日は128人が元気な姿で出席されました。

式典では、今年88歳の米寿を迎えられた22人のうち、出席された5人の方々に松井町長から祝品が手渡され、長い人生の節



▲夫婦で出席された日司町の吉田忠信さんと妻のヒサ子さん。このほか5組が夫婦での参加となりました。



▲出席者最高齢の鈴木キミエさん（美国町：満93歳）

目を祝いました。

祝宴では、保育所園児の遊戯や各地区の婦人会の皆さんによる舞踊などが行われたほか、敬老者自身によるアトラクションも披露され、高齢を感じさせない艶やかな歌声と元気な踊りを披露。友人との会話も弾み楽しいひとときを過ごされていました。

なお、町内の最長寿者は、101歳、余別町の吉田アキさん（明治43年11月生まれ）です。



▲今年、88歳を迎えられた角田静江さん（野塚町）は、「自分の畑で収穫した野菜を友人にあげるのが楽しみ」と話してくださいました。



松本幸子さんはアトラクションで会場を盛り上げました。

「ひとり暮らし」

困っていることはありませんか・・・

北星学園大学生がアンケート調査を実施

「ひとり暮らし暮らし高齢者が、町内で暮らし続けるには、どのような手助けや施策が必要なのか。」その基礎的資料の収集を目的とした町と北星学園大学による調査が、9月15日から17日の3日間、美国町の高齢者を対象に行われました。

平成22年国勢調査における積丹町の65歳以上の高齢者数は1,013人と人口（2,516人）の40.3%を占め全道で6番目の高い割合となっており、その内、ひとり暮らしの高齢者割合は26.9%（273人）と道内町村部では一番高い割合となっています。

今回の調査は、北星学園大学の学生12人が社会福祉調査実習として参加し、ひとり暮らしの方々の子供や近所との付き合い、毎日の過ごし方や生活を続ける上で困難に思っていることなどを戸別訪問により聞き取り調査をしました。

調査の指導にあたった北星学園大学中田知生准教授は、「高齢者が一人で暮らし続けるには、地域とのつながりが大切だ

と思います。積丹町の高齢者が地域の中でどのように暮らし続けるのか、暮らしす上での課題は何かを明らかにすることにより、地域で長く住み続けることが可能な方向性を見いだせればと思っています。」と調査結果への期待を話されています。

町では、中田准教授の調査結果を、これからの高齢者支援のあり方などの検討資料として活用を図ることとしており、また、来る11月には、今回の調査などを基に、中田准教授を講師に招いた研修会を開催する予定です。



平成22年国勢調査における高齢化率

順位	市町村名	高齢化率
1	夕張市	43.8%
2	神恵内村	43.1%
3	上砂川町	42.5%
4	三笠市	42.3%
5	歌志内市	41.2%
6	積丹町	40.3%
	全道	24.7%
	全国	23.0%

積丹町長選挙における候補者の選挙運動に関する収支報告

平成24年6月3日執行の積丹町長選挙における候補者の出納責任者から提出のあった、選挙運動に関する収支報告書の要旨は、次のとおりです。

積丹町選挙管理委員会 委員長 磯野久治

届出番号	候補者氏名	収入の部(円)			支出の部(円)										選挙運動費用支出制限額(円)	
		寄付	その他の収入	計	人件費	家屋費	通信費	交通費	印刷費	広告費	文具費	食糧費	休泊費	雑費		計
1	松井秀紀	290,000	496,482	786,482	290,000	278,391	9,074	-	93,000	-	4,834	40,368	-	70,815	786,482	1,542,600